



平成27年8月5日

各 位

会 社 名 JALCO ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 田辺 順一  
(JASDAQ・コード6625)

問合せ先

役 職・氏 名 取締役管理本部長 大浦 隆文  
電 話 050-5536-9824

## 営業外収益、特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年3月期第1四半期累計期間（平成27年4月1日～平成27年6月30日）決算におきまして、営業外収益、特別利益及び特別損失を計上するとともに、平成27年5月19日に公表いたしました平成28年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想及び平成28年3月期通期の連結業績予想を修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外収益の発生について（連結）

##### (1) 貸倒引当金戻入益

平成27年5月15日発表「営業外費用の発生及び繰延税金負債の取り崩し並びに業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当社は、平成27年3月期通期決算におきまして、電子機器用部品事業の譲渡にかかる譲渡代金の債権残高50百万円（平成27年3月末現在）について、当該譲渡先の直近の財務諸表等を基に回収可能性の検討を行った結果、その全額に対して貸倒引当金を計上いたしました。

その後、当第1四半期におきまして、当該譲渡先より譲渡代金の一部として5百万円を受領しましたので、貸倒引当金戻入益5百万円を営業外収益として計上いたしました。

##### (2) レンタル代金受領益

当社は、当社連結子会社である株式会社ジャルコアミュージズメントサービス（以下、「JAS」といいます。）が取引先ホール企業との間で行った中古設備（以下、「当該設備」といいます。）の取得取引、レンタル取引、及び売却取引について、当該設備のほとんどが他人物であった事実が判明したことを受けて、平成26年3月期決算におきまして、レンタル契約に基づくレンタル売上高、及びレンタル資産にかかる減価償却費を全て取り消した上で、JASが取引先ホール企業に支払った当該設備の取得代金50百万円を仮払金、取引先ホール企業から受領したレンタル料、当該設備の売却代金の合計額58百万円を仮受金とする資金取引に訂正し、仮受金から仮払金を差し引いた8百万円を雑収入として計上する会計処理を行い、平成26年6月12日に過年度の決算短信等の訂正、及び平成26年3月期通期決算短信を発表いたしました。

ところが、有価証券報告書作成にあたっての精査におきまして、会計監査人より、JASによる当該設備売却（売却代金29百万円）と同日に、当社連結子会社である株式会社ジャルコ（以下、「ジャルコ」といいます。）が、取引先ホール企業に対して36百万円の貸し付けを行っていたことに関して、取引先ホール企業のJASに対する支払原資が、ジャルコによる貸付金であると見なされる可能性があることから売却代金の収益認識は時期尚早ではないかという指摘を受け、当社は、JASにおける収益認識を目的とした取引であるという疑念を抱かれるような会計処理は避けるべきであるという判断に至り、売却代金29百万円の収益認識を見送る旨の訂正処理を行い、仮受金29百万円を計上いたしました。

（上記の詳細な経緯につきましては、平成26年6月27日発表「平成26年3月期決算短信の一部訂正について」をご参照ください。）

当社は、当第1四半期累計期間決算におきまして、当該仮受金の収益認識の時期・方法について改めて検討いたしました。その結果、ジャルコから取引先ホール企業への貸付金の残高と同額となるまで仮受金を取り崩し、収益認識することが妥当であるとの結論に至り、レンタル代金受領益8百万円を営業外収益として計上いたしました。

## 2. 特別利益の発生について（連結）

JASが行っている中古遊技機レンタル取引（対象遊技機台数1,053台）におきまして、取引先ホール企業より一部遊技機（70台）譲渡の申し出を受け、売却いたしました。その結果、固定資産売却益3百万円を特別利益として計上いたしました。

## 3. 特別損失の発生について（連結）

平成26年2月20日発表「海外関係会社の解散・清算及び特別損失の発生に関するお知らせ」のとおり、当社は、PT. JALCO ELECTRONICS INDONESIA（当社の孫会社 以下、「JALCO INDONESIA」といいます。）の解散及び清算を決定し、平成26年3月期通期決算におきまして、清算終了までに発生する税金費用、JALCO INDONESIAの維持費用など清算費用の見積りを行い、関係会社清算損失引当金繰入額80百万円を特別損失として計上いたしました。

当該清算完了までの所要期間につきましては、インドネシアにおける清算手続きということで、合理的に見積ることが困難であるという前提の上で、18か月間を想定し、平成27年9月末までに清算終了するものとして費用の見積りを行っておりました。しかしながら、現時点におきまして、インドネシア税務関連当局における監査手続きの関係上、上記期間にて清算終了することが難しい状況であると判断いたしましたので、当第1四半期におきまして、清算手続き期間を6か月延長することとし、その間の清算費用を見積るとともに、為替相場の変動による影響（主にUSドル建て費用の円換算額が円安の進行により増加していること）も織り込んで、関係会社清算損失引当金の積み増しを行うことといたしました。

この結果、関係会社清算損失引当金繰入額24百万円を特別損失として計上いたしました。

## 4. 平成28年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想の修正

（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 当期純利益
当初予想（A）	360	60	10	10	0円21銭
今回修正予想（B）	360	60	20	30	0円62銭
増減額（B－A）	0	0	10	20	—
増減率（％）	0%	0%	100%	200%	—
（ご参考）前期実績 （平成27年3月期 第2四半期累計期間）	520	64	△6	71	1円48銭

<修正理由>

第2四半期累計期間の連結売上高、連結営業利益につきましては、当初予想から変更はありません。

連結経常利益は、当初予想を10百万円上回り20百万円となる見込みです。これは主に、「1. 営業外収益の発生について」のとおり、当第1四半期累計期間決算におきまして、営業外収益が発生したことなどによるものであります。

親会社株主に帰属する連結四半期純利益は、当初予想を20百万円上回り30百万円となる見込みです。これは主に、経常利益の上振れしたこと、及び当第1四半期累計期間決算におきまして、「2. 特別利益の発生について」、「3. 特別利益の損失の発生について」に記載のとおり特別損益が発生したことに加えて、平成27年6月19日発表「特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、当社子会社である株式会社ジャルコアミュージメントサービス及び株式会社ジャルコの取引先である株式会社オムコの破産手続きの進行に伴う中間配当の受領により、貸倒引当金戻入額54百万円を特別利益として計上したことなどによるものであります。

5. 平成 28 年 3 月期通期連結業績予想の修正  
 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
当初予想 (A)	630	150	60	50	1 円 03 銭
今回修正予想 (B)	630	150	70	80	1 円 66 銭
増減額 (B - A)	0	0	10	30	—
増減率 (%)	0%	0%	16.7%	60%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	888	120	△46	△48	△1 円 00 銭

<修正理由>

通期の連結売上高、連結営業利益、当初予想から変更はありません。

連結経常利益は、当初予想を 10 百万円上回り 70 百万円となる見込みです。「1. 営業外収益の発生について」のとおり、当第 1 四半期累計期間決算におきまして、営業外収益が発生したことなどによるものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、当初予想を 30 百万円上回り 80 百万円となる見込みです。これは主に、「4. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正」に記載のとおり、当第 1 四半期累計期間決算におきまして、特別損益が発生したことなどによるものであります。

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表時現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので予めご理解ください。

以 上